

やさしい考古学講座 第2回 戦国時代の城～岐阜城

平成26年2月16日(日)、於：ハートフルスクエアG

内堀信雄(岐阜市教育委員会社会教育課)

はじめに

- ・中世山城の姿…山上(戦時の詰めの山城)＋山麓(平時の居館)
- ・中世山城の変化…詰め城から日常生活の場へ※一国の中心的城郭の場合
- ・近世山城の姿
- ・近世城郭の特徴…「石垣」「瓦」「天守閣(礎石建物)」
⇒これらの要素は、信長の安土城で成立したとされる。では、安土直前の岐阜城は？

1 岐阜城の歴史

表1 岐阜城略年表(三宅2006、横山1990等を参考に作成)

- 1495(明応4) 船田合戦。守護代齋藤妙純 VS 又守護代石丸利光
- ①1496(明応5) 城田寺合戦、齋藤妙純 VS 石丸利光。妙純方、稲葉山に布陣、山頂から烽火をあげる。石丸・土岐元頼ら敗死。12月に妙純、齋藤大納言以下多数が近江国で敗死。
- 1509(永正6) この頃「福光御構」普請。
- 1517(永正14) 齋藤利良(守護代?)と守護土岐政房合戦。守護方が敗れる。
- 1518(永正15) 齋藤利良が土岐子(頼武?)を伴い越前に逃れる。
- 1519(永正16) 守護土岐政房没。土岐頼武・齋藤利良が越前朝倉氏の支援を受けて美濃入国。福光、鷲山、池戸城等落城。土岐頼武守護となる。
- ②1525(大永5)「土岐殿・齋藤名字中」が長井氏に追われて「山入」。10月に朝倉氏、土岐合力のため美濃に出陣して長井氏の稲場山城を攻める。
- 1532(天文元) 守護が枝広館に移る。
- 1533(天文2) 長井長弘・長井新左衛門尉死去。長井景弘・長井規秀(齋藤道三)継承。
- ③1535(天文4) 長良川大洪水(7月)。齋藤道三と土岐次郎・朝倉氏・六角氏の間で合戦が始まる。この頃、齋藤利政(道三)が稲葉山城に拠点をおく。
- 1538(天文7) この頃までに乱終息。
- 1543(天文12) 大桑で合戦。
- ④1544(天文13) 土岐頼純(頼充)・朝倉教景・織田信秀が齋藤道三を攻めるが、稲葉山麓で敗退。
- 1549(天文18) 織田信長、道三の娘濃姫と結婚。このころ、道三が土岐頼芸を追放。
- 1553(天文22) 齋藤道三、織田信長と富田聖徳寺で会見。
- 1554(天文23) 齋藤道三、家督を利尚(義龍)に譲る。
- 1556(弘治2) 齋藤義龍に攻められ、道三敗死(長良川の合戦)。
- 1561(永禄4) 齋藤義龍病死。子の龍興跡を継ぐ。
- ⑤1564(永禄7) 齋藤龍興、竹中半兵衛らに稲葉山城を占領され、退城。
- ⑥1567(永禄10) 織田信長、稲葉山城を攻略し、本拠を小牧から井口へ移す。井口を岐阜と改名する。
- 1569(永禄12) ルイス・フロイス岐阜来訪。山科言継2回にわたり岐阜来訪。
- 1572(元亀3) フロイス、カブラルとともに岐阜再訪。
- 1576(天正4) 織田信長、安土城へ移り、嫡男織田信忠が跡を継ぐ。

1582（天正10）6月2日、本能寺の変、織田信長・信忠自刃。斎藤利堯岐阜城を占領。
清須会議後、織田信孝（信長三男）入城。

⑦1583（天正11）3月信孝挙兵するが、4月秀吉に投降。6月池田元助城主となる。

1585（天正13）池田輝政入城。

1591（天正19）豊臣秀勝入城。

1592（文禄元）織田秀信（信長嫡孫、信忠の子）入城。

⑧1600（慶長5）関ヶ原の合戦前哨戦で岐阜城落城。以後廢城となる。

2 キーワード

「見せる城」「おもてなし」「迎賓館」

3 山上の城について

(1) 分布調査*・縄張り図*調査などでわかってきたこと

斎藤道三・義龍・龍興の時代に形作られた自然地形主体の山城をベースに、
織田信長が山上の中枢部を本格的な石垣や虎口(こゝち)で「見せる城」に改修。

①チャートの岩山からなる自然地形主体の防御空間に石垣、曲輪（くるわ）などの遺構が散在。※基本的な形は、斎藤道三・義龍・龍興時代に形成か

②山上部に多数の曲輪（天守台、上台所、下台所、太鼓櫓、煙硝蔵）、通路（馬場）、3つの虎口*（一ノ門、二ノ門、裏門）。

③山上に2つの頂（天守台と斜面＝段築状石垣、上台所＝岩山、両頂を結ぶ石垣通路）
※このあたりに信長と家族の居住空間が存在か。

「彼は内部においては、婦人および姫君（信長の娘）、息子たちによってのみ仕えられていた（フロイス『日本史』）」

※天守台斜面の段築状石垣は、小牧山城の段築状石垣の系譜を引く可能性&安土城天主台の原型となる可能性＝「見せる城」

※二ノ門から天守台（or 裏門）間が狭義の城域か。石垣は信長以後の改修と推定。

※一ノ門の巨石虎口は斎藤時代か信長時代か判断が難しい。

④中心部の曲輪と虎口は石垣や巨石使用。※信長以後

⑤周辺部の曲輪（北東尾根、松田尾など）は古相な石垣（石積み）。※斎藤時代か

⑥信長以降の改修は部分的で、山上部の曲輪全部を石垣で固める安土城や竹田城のような織豊系城郭（しょくほうけいじょうかく）*の姿になっていない。

⑦発掘成果（上台所直下の井戸へ降りる階段）

※焼けた棟板瓦や土器・陶磁器出土。1600年焼失と推定。

(2) 軍事施設としての見どころ

①煙硝蔵と2つの登城路

②一ノ門と太鼓櫓

(3) 疑問

- ①信長時代に天守はあったか？
- ②上台所はなぜ岩山か？
- ③信長以降の改修がほとんど見られず、1600年の落城までずっと自然地形主体の防御のままなのはなぜか？

4 山麓居館について

(1) 発掘でわかってきたこと

- ・ 発掘成果はフロイス記述の「宮殿」と良く合う（巨石列、庭園遺構など）。
- ・ 賓客をもてなす空間＝迎賓館的な場。

- ①段々地形に上下層の遺構（上層：信長～秀信）、下層：道三～龍興）
 - ※上層は下層を利用しつつ改修（入口、大形石垣など）。上・下層いずれも火災（1567年と1600年か）の痕跡。
- ②巨石を並べた入口（上層）
 - ※食い違い虎口状だが、庭園空間への入り口。「驚くべき大きさの截断されない石の壁がそれを取り囲んでいます（フロイス『日本史』）」
- ③巨石列・大形石垣・その他の石垣（上層）
 - ※「見せる」石の壁と護岸か。
- ④庭園遺構（上層）
 - ※5つ確認。岩山などの周囲の風景も含めた巨大な庭か。
 - 「庭と称するきわめて新鮮な四つ五つの庭園」（フロイス『日本史』）」
 - 「たくさんの泉や、驚くべきしかけで、清らかな水がほとばしっている吹き上げ」（アビラ・ヒロン『日本王国記』）」
 - 「あれらの鳥たちを殺させ、それらを十分に焼くことを承服するよう命じました。」「これらは非常に美しい鳥たちで、日本では大変愛好されており、彼が庭園で飼っていたのは、それを楽しむためでした。（フランシスコ・カブラル「長崎発書簡」）」
- ⑤金箔瓦*（棟板瓦*）建物（上層・C地区）
 - ※石垣で護岸された段々地形上に建設か。
 - ※安土城・熊本城本丸御殿などのような地下通路を持つ構造か。
 - ※居館の中心建物（狭義の迎賓館）
- ⑥半地下式建物遺構（上層・B地区）
 - ※平面方形・半地下式・壁立ちの蔵状構造。

5 道三、信長の城づくりを考える～古相石垣・巨石技術系譜から

- ・ 道三は、他国の技術で成った守護の城・大桑城(episode1)の石垣・巨石技術を導入して稲葉山城を居城化(episode2)。

- ・ 信長は、稲葉山城の巨石技術に庭園の技術を加えて、かつてない大形石垣技術を創出し、「**見せる城**」小牧山城を築いた (episode3)。
- ・ そして、信長は岐阜城で、小牧山城の技術に畿内の最新石垣技術を融合させ、安土城で完成する高石垣・総石垣に向けて大きく前進させた (episode4)。

(1) 古相石垣技術の系譜を考える

- ・ 近江観音寺城⇒美濃大桑城⇒美濃稲葉山城

(2) 巨石技術の系譜を考える

- ・ 越前一乗谷⇒美濃大桑城⇒美濃稲葉山城⇒尾張小牧山城※⇒美濃岐阜城
- ※巨石技術+庭園技術で大形石垣を初めて実現？

《語句解説》

虎口 (こぐち) …曲輪の入り口部分。城門を建てるのが普通。

金箔瓦 (きんぱくがわら) …金箔を貼った瓦。城郭に用いたものは安土城が最古とされていたが、岐阜城山麓居館で今回出土の金箔瓦は安土城以前と見られる (平成 25 年 11 月 6 日岐阜市重要有形文化財指定)。

棟板瓦 (むねいたかわら) …板葺きや檜皮 (ひわだ) 葺き等の屋根の棟部分に用いられた瓦。

縄張り図 (なわばりず) …城郭の地表面に残された城の痕跡を軍事的観点から解釈し、痕跡を何らかの方法で計測し、平面図化したもの。

分布調査 (ぶんぶちょうさ) …考古学的手法により遺構の広がりや形状を地図上に記録する調査方法。

曲輪 (くるわ) …城郭を構成する平面の区画をいう。郭ともいう。

織豊系城郭 (しょくほうけいじょうかく) …「織田信長、豊臣秀吉と、その一族、家臣たちによって築かれた極めて斉一性の強い城郭」「その構造は基本的には石垣、瓦、礎石建物という 3 つの要素から構成されている」(中井 2012)

《引用・参考文献》

- ・ 井川祥子・高木晃 2012 「岐阜城」『歴史読本 6 月号』新人物往来社
- ・ 内堀信雄 2010 「岐阜城」『岐阜の山城ベスト 50 を歩く』サンライズ出版
- ・ 内堀信雄 2012 「岐阜城～伝統のなかの革新性」『天下人の城』風媒社
- ・ 岡美穂子 2013 「フランシスコ・カブラルの長崎発書簡 (1572 年 9 月 23 日付) に見る岐阜」『岐阜市歴史博物館研究紀要 21』
- ・ ぎふまちづくりセンター 2012 『信長と岐阜 岐阜の城下町 金華山 (第 4 版)』
- ・ 佐久間正・会田由・岩生成一 (訳・註) 1965 『アビラ・ヒロ日本王国記』岩波書店
- ・ 高木洋 (編著) 2011 『宣教師が見た信長の戦国』風媒社
- ・ 中井均 2012 「織豊系城郭研究の現状」『季刊考古学 第 120 号』雄山閣
- ・ 松田毅一・川崎桃太訳 1978 『日本史』中央公論社
- ・ 三宅唯美 2006 「戦国期美濃国の守護権力と守護所の変遷」『守護所と戦国城下町』高志書院
- ・ 横山住雄 1990 『岐阜城』美濃文化財研究会
- ・ 横山住雄 1992 『美濃の土岐・斎藤氏』濃尾歴史研究所
- ・ 横山住雄 1994 『斎藤道三』濃尾歴史研究所